

VII. コミュニケーション内容と回答のやりとりについて

1. 範囲と内容

	コミュニケーション内容	選択肢(該当するものに○をつける)
1	趣味のある事など、非常に限られた事(例えば: 食べたいもの・今日の予定・テレビ番組・天気・買い物等)について、やりとりができるか。 (具体的に:)	可能 一部可能 難しい
2	身の回りの事について、質問者側の具体的な例の提示に対して反応があるか。	可能 一部可能 難しい
3	自分の暮らし全般に係わる希望・要望・意見等、利用者が自発的に要望等を表現できるか。	可能 一部可能 難しい
4	福祉の制度・政策等(サービス利用や成年後見制度等)について、やりとりができるか。	可能 一部可能 難しい
5	その他(プライバシー・権利・苦情解決・情報公開等)について、やりとりができるか。	可能 一部可能 難しい

2. コミュニケーション特性及び具体的配慮

	項 目	5段階評価(該当するものに○をつける)
1	必要な時に相談したり、支援を求めたりする事が	①全く出来ない ②殆ど出来ない ③一部出来ない ④ほぼ出来る ⑤出来る
2	異性と接する際のマナーやルールを守る事が	①全く出来ない ②殆ど出来ない ③一部出来ない ④ほぼ出来る ⑤出来る
3	自分の考えを適切に主張することが	①全く出来ない ②殆ど出来ない ③一部出来ない ④ほぼ出来る ⑤出来る
4	自分に対する批判をきちんと聞くことが	①全く出来ない ②殆ど出来ない ③一部出来ない ④ほぼ出来る ⑤出来る
5	他人と仲良く付き合うことが	①全く出来ない ②殆ど出来ない ③一部出来ない ④ほぼ出来る ⑤出来る

※多くの面で援助が必要な利用者(評価レベル①又は②に1つでも該当する人)については、レベルに応じた具体的な配慮が必要です。配慮する項目を確認するため、該当する項目をチェックしてください。

	レベルチェック項目	チェック	※ 必要な具体的配慮
1	応答が安定しない(体調や気分により左右されやすい)		場合によっては慣れた人に尋ねて貰う 選択法を使う(二者選択法)
2	サインや1~2語で答える		絵や写真サインマーク等を使って質問
3	2~3語文で質問に答える		必要な場合は答えを促す
4	「何、誰」の疑問文に答える		気が散らない所で質問する
5	質問に対して同じ答えになりやすい		分からない時は単語の言い換えをする